

令和8年度 愛知教育大学附属高等学校

第44回 高校教育シンポジウム

研究主題

人生を切り拓く探究力 ―各教科の取り組みについて―

(2年次)

【期 日】 令和8年11月11日(水) 【会 場】 愛知教育大学附属高等学校

【主 催】 愛知教育大学附属高等学校 【後 援】 愛知県教育委員会

【日 程】

12:30	13:00	13:30	13:40	14:30	14:50	16:30
シンポジウム 受 付	開会行事	移 動	公開授業	移 動	第1分科会 英語科 第2分科会 地歴・公民科 第3分科会 個人研究発表	アンケート 回 収

【シンポジウム対象公開授業】 13:40～14:30 ※ほかにも公開授業がございます(裏面参照)

分 科 会	科 目 名	実施学年	授 業 者	司 会 者
第1分科会 英 語 科	英語コミュニケーションⅡ	2年	木村 友祐	愛知県立豊橋工科高等学校 教頭 川上 佳則
第2分科会 地歴・公民科	地理総合	2年	山本 真生	西牟田 哲哉

【分 科 会】 14:50～16:30

分 科 会	テーマ	共 同 研 究 者	問 題 提 起 者
第1分科会 英 語 科	教材の自分事化による探究力の育成 ―英語インタラクションを経た深い学び へのアプローチ―	愛知教育大学 外国語教育講座 教授 田口達也	有本明日翔 加古久光 木村友祐 平岩加寿子 宮本真衣
第2分科会 地歴・公民科	探究力を育む地理総合の授業 ―自己と社会的事象をつなぐ「問い」 へのアプローチ―	愛知教育大学 社会科教育講座 教授 阿部亮吾	伊吹憲治 大見亮介 村田拓也 山本真生
第3分科会 個人研究発表	■オンラインコミュニケーションツールによる「協働知」の形成を図る授業実践 ■部活動指導(サッカー)におけるエコロジカルアプローチ～環境・制約によって選手の運動学習を促す～ ■学校教育における自作 AI 活用事例の共有		■疇地 一稀 (国語) ■三井陽介(保健体育) ■有本 明日翔 (英語)

【公開授業一覧】

学年	組	教科 (科目)	主題/『単元・題材』/研究主題と関連させためざす授業	授業者
1年	1	数 学 (数学Ⅰ)	創造力を育む数学科授業 ―数学的創造力に着目して― 『図形と計量』 創造力を「数学的創造力(Mathematical Creativity)」として捉え、 既有知識を関連付けながら、新たな数学的な見方や解決方法を生み出す力の育成を、三角比を活用した課題解決を通して目指します。	五 味
	2	国 語 (言語文化)	文学的文章を通して自己の生き方・在り方と社会との関わりを見つめる 『羅生門』 文学的文章に登場する人物の置かれた状況や物語の時代背景などを自分事としてとらえ、現代に生きる自分(たち)の置かれている状況や時代について考える活動を通して、社会と自己の関わりに気づき、社会と主体的に関わろうとする態度を養うことを目指します。	太 田
	3	情 報 (情報Ⅰ)	実践を通して学ぶ情報活用能力 『情報デザイン』 様々な受信者を想定した情報デザインを考え、既存のデザインや他者の作成したデザインを批判的に捉え、問題点や改善点を考察し、指摘する活動を通して、コミュニケーション能力を育成することを目指す。	小 林
	4	公民 (公共)	政治的有効性感覚を涵養する歴史総合と公共の横断授業 『政治参加と選挙』 選挙制度の歴史を学ぶことを通して、選挙権の拡大と政治的不満の構造を理解する。普通選挙 100 年と現代の選挙制度とその課題を概観することで政治参加について関心をもち、投票等の行動に結びつける。	村 田 伊 吹
2年	1	英 語 (英語コミュニケーションⅡ)	シンポジウム対象授業	平 岩
	2		シンポジウム対象授業	木 村
	3	地理・歴史 (地理総合)	シンポジウム対象授業	山 本
	4	理 科 (化学基礎)	認知変容を促す授業を目指して 『酸・塩基の反応を考える』 理科の学びでは、それまでの学びや経験による既有概念が新概念の理解に優位に働きかける場合もあれば、妨げる場合もある。酸・塩基の中和を題材に、概念認知の変容を促す授業をデザインします。	足 立

【分科会研究主題】

■第1分科会 英語科

「教材の自分事化による探究力の育成 ―英語インタラクションを経た深い学びへのアプローチ―」

生徒が教科書の内容を単なる事実として受け入れ、何の疑問も持たずに学習を終えてしまう現状に対し、「これでは深い学びと言えないのではないか」という強い問題意識を抱いた。生徒の学習を受け身の知識習得から脱却させ、深い学びへ結び付けるにはどうすべきか。

この課題に対し、本校の重点目標である「探究力の育成」と、英語科が掲げる「質問力の向上」を連動させた授業改善に取り組んでいる。具体的には、教科書のトピックを単なる事実としてではなく、生徒自身の関心や社会課題と結びつける「自分事化」をスタート地点に設定し、生徒は学習した内容から自らテーマや課題を設定し、情報収集をした後に英語でプレゼンテーションを行う。さらに、発表後に英語でのインタラクションを実践することで、他者の発表に対する「質問力」を鍛え、双方向のやり取りを通じてトピック理解をより多角的に深めていく。

教材の自分事化・探究、英語での発信・対話の一連の流れを通じて、単なる教材理解ではなく、主体的で深い学びの実現を目指す授業を展開していきたい。

■第2分科会 地歴・公民科

「探究力を育む地理総合の授業 ―自己と社会的事象をつなぐ「問い」へのアプローチ―」

本校では、「人生を切り拓く探究力」の育成をかね、総合的な探究の時間における「附高ゼミ」を中核に、各教科においても探究力の育成を目指している。

地理歴史・公民科として、探究力育成のなかで焦点をあてたいことが二つある。一つは「問いをつくる力」の育成である。探究活動において、社会的事象や課題をテーマとして扱う際、深まりのある問いを立てられない傾向がみられる。これは生徒が社会的事象を自身の関心や生活と隔たりのある、抽象的な事象として受け止めてしまうことが一因であろう。そこで昨年度の歴史総合では、2年次に行われる沖縄修学旅行を見据えた探究学習を実施した。地理総合においても修学旅行の事前学習や他科目と連動させた授業実践に取り組む。学校行事を結節点に社会的事象と自己との接点を見出し、生徒自らが追究したくなるような問いをつくる力を育てたい。もう一つが、社会的な見方・考え方を働かせた「情報を整理・分析する力」の育成である。探究活動において、収集した情報を並べるだけに留まり、多角的な視点や構造的な理解に基づいた分析がなされていないことが課題である。そこで、地理的な見方や考え方を活用し、情報を比較・分類・関連付けさせる活動を授業内に取り入れていく。

地理総合における探究的な学びの実践を通して、探究する力を育てる授業を展開していきたい。

■第3分科会 個人研究発表

・「オンラインコミュニケーションツールによる「協働知」の形成を図る授業実践」

国語科 疇地 一稀

「Padlet」というオンラインコミュニケーションツールを用いて、生徒たちが問いに対して自らアプローチを立て協働的に解き方を探る授業実践の紹介をします。生徒一人ひとりがもつ知識や考えを「Padlet」を用いることで集約・共有し、学級全体の協働知に拡張する授業を提案します。

・「部活動指導（サッカー）におけるエコロジカルアプローチ

～環境・制約によって選手の運動学習を促す～

保健体育科 三井 陽介

制約（環境設定）を変えることで、今までできなかった動作が急にできるなど、制約（環境設定）を意図的に選手の変化に応じて変更し、運動学習させることを目標にボール・コート の形や大きさ、ルールなどの設定を試行錯誤しました。本校サッカー部の生徒で行ったトレーニング事例など、生徒の運動学習の変化を紹介します。

・「学校教育における自作AI活用事例の共有」

英語科 有本 明日翔

オリジナルの自作AI（おもにGeminiを活用）を導入し、生徒の個別最適な学びやキャリア教育を推進した具体的な実践事例とその作り方を紹介します。開発の背景から授業での効果的な活用法、運用上の課題まで、明日からの教育活動に活かせるヒントを共有します。

【本校へのアクセス】

- (1) 名鉄名古屋本線知立駅から名鉄バス(①番のりば)
愛知教育大前行き, 日進駅行き, 又はイオン三好店アイモール前行きにて 20 分
「愛知教育大前」下車徒歩 10 分
- (2) 名鉄豊田線日進駅から名鉄バス知立行きにて 25 分
「愛知教育大前」下車徒歩 10 分
- (3) JR東海道本線刈谷駅から名鉄バス愛知教育大前行きにて 35 分
(本数が少ないので, 時刻表でご確認願います。)
「愛知教育大前」下車徒歩 10 分



【その他】

- (1) 申し込み後, 変更が生じた場合には, メールで担当へお知らせください。
- (2) お車で越しの際は, 大学南門横の大学構内駐車場(P11)をご利用ください。
- (3) 緊急の連絡等がある場合につきましては, 速やかに申し込いただきました連絡先にメールさせていただくと共に, 本校ホームページでもお知らせいたします。ご容赦ください。

お申し込みはこちらのQRコードから



<https://forms.gle/Bs6ShF9vpFaz28K3A>

申込締め切り
10月30日(金)

担 当 研究主任 (有本)

Tel (0566) 36 - 1881 / FAX (0566) 36 - 1883

メール admin-hs@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

本校 HP <https://www.auehs.aichi-edu.ac.jp>